横浜市立 都田西小学校　　学校評価報告書　　（令和元～3年度）

重点取組分野	令和元年度 具体的取組	令和元年度 自己評価結果	総括
生きて はたらく知	○重点研究のテーマを『身近な人々や地域とのかかわりを大切にし、じっくり考え課題解決する子の育成』とし、生活科・総合的な学習の時間を通して主体的に探究し他者と協働的に取り組む力を育成する。○誰もが分かる授業を目指し、基礎基本の確かな定着に努める。	○今年度の重点研究が生活科や総合的な学習の時間を通して身近な方や地域とのかかわりを大切にする授業実践だった。材を集め、積極的に連絡を取りながら学習を進め、協働的に取り組む力の育成を図ってきた。○板書の工夫、少人数指導などより細かい指導にあたってきた。	B
豊かな心	○年2回取り組んでいる児童活動の「あいさつ運動」を充実させるとともに、学校・地域・家庭が協力してあいさつを推進していく。○他学級・他学年との交流を進め、仲間意識を高め、一人一人が大切な存在であることを考え、いじめや差別のない心を育てる。	○学校・地域・家庭で取り組み、あいさつができることを目指してきた。学校評価ではあいさつが少ないという声が寄せられるので、朝会等でも取り上げ、繰り返し声をかけてきた。○なかよし活動、人権週間など様々な時間に自分や相手を思う気持ちの大切さを伝え、いじめや差別がない集団作りを目指した。	B
健やかな体	○学校保健委員会のテーマを『健康づくり大作戦！』とし、食事・運動・睡眠などの生活リズムを整える取組をする。○運動委員会による定期的な運動集会を実施するとともに、体力テストの結果を活用し、進んで運動に関わり、楽しさや喜びを味わいながら体力向上を目指すことができるようにする。	○学校保健委員会では、運動の大切さを意識できるように簡単なストレッチやリズムジャンプも取り入れ、健康づくりに取り組んできた。○運動会委員会を中心に継続的に運動ができるように、年間を通して計画をたてて取り組んできた。積極的に取り組んでいたが、今後は継続できるようにしていきたい。	B
児童生徒指導	○全ての児童が安心して生活できるよう、秩序ある学校づくりを全教職員で進める。○いじめ防止対策委員会、職員会議・職員研修等を通して、児童理解を図る。○児童支援専任、特別支援コーディネーターを中心とする組織的指導体制を確立し、事案発生時は学校全体で組織的に対応していく。	○全校児童が安心して生活できるよう、いじめ防止対策委員会や職員会議、職員研修等を通して、全職員で理解を図ってきた。○児童支援専任が核となりながら、事案発生時には一人の職員が抱え込むことなく学年を中心に複数体制をとって迅速に対応し、解決に向けて取り組んできた。	A
特別支援教育	○特別支援コーディネーターを中心とする体制を確立し、特別支援教育の充実を図る。○特別な支援を必要としている児童や学習に困り感をもっている児童が安心して過ごすことができるよう、学習ルーム等の活用の取組を進める。○支援計画・指導計画を作成し、活用できるようにする。	○学習ルームや相談室を活用して継続的な支援を実施し、自己肯定感を高めたり安心感を与えたりできるようにした。年度途中の希望もあり、特別支援の考えが保護者にも浸透している。○支援計画・指導計画を効果的に活用できるよう、特別支援コーディネーターが中心となって環境整備を進めた。	A
安全管理	○児童自身が有事の際に適切な対応ができるよう火災や地震発生を想定した避難訓練、関係機関と連携しての防災訓練、不審者侵入を想定した防犯訓練等を計画的に行う。○登下校を含めた防犯・防災・交通安全について保護者・地域と情報を共有し、実効性のある対策の実現に向けて努める。	○各月ごとの訓練は、昨年度の反省も生かしながら安全に行えるように計画し、取り組んだ。訓練当日の気候や状況によって計画が変更になることがあったが、臨機応変に対応するとういう面での確認ができた。○登下校時の防犯・防災・交通安全についての情報を共有できるようにしてきた。	B
地域連携・学校運営協議会	○地域の行事や活動に積極的に関わるとともに、『身近な方』とのつながりを生かした教育活動を展開し、地域の教育力を積極的に生かすことができるようにする。○『まちとともに歩む学校づくり懇話会』を通して学校の教育活動について理解を頂くとともに、連携について共有する。	○生活科・総合的な学習の時間を通して、地域の材を知り、身近な方とのつながりをもちながら学習に生かすことができるよう積極的にかかわってきた。○『まちとともに歩む懇話会』を通して学校で取り組んでいることを伝え、ご理解、ご協力頂いてきた。	B
いじめへの対応	○定例・臨時のいじめ防止対策委員会を中心に、いじめの認知やその後の経過を確認し再発防止に努める○職員の児童理解力を高めるとともに、いじめアンケートを実施していじめをとらえるように努める。○児童には、相談することの大切さを伝え続けるとともに、伝えやすい環境づくりに努める。	○毎月いじめ防止対策委員会を開き、状況確認を行うことで、早期発見、適切な対応、予防の取組を共有した。○普段から児童の話に耳を傾けたり日々の様子を見守ったりしていることで、自ら先生に相談したり話したりする児童もいる。いじめアンケートからいじめの兆候にすばやく気付けるようにしてきた。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	○校長、副校長が先頭に立ち、大規模校の環境を活かし、組織力を高める。○中堅若年層育成のため、学年副主任制度や一人一役により学年経営・運営を経験し、責任と見通しをもって業務を遂行できるようにする。○職員室業務アシスタント等との業務分担を整理し、業務の効率化や時間の確保・充実を図る。	○サブリーダー経験者が学年主任となり、学年・学校運営を進め、管理職やベテラン層が支える体制をとった。○若年層は、新たにサブリーダーを経験し、初任者の相談役になったり一人一役を担ったりして育成を図った。○職員室業務アシスタントに業務分担をし、職員の業務効率化や時間の確保を行った。	B

ブロック内相互評価後の気付き	大規模校であることの動きにくさを抱えながらも、教職員の多さを生かして活気ある集団活動となっている。若年・中堅層が多く、ベテラン層が少ない現状もあるので、教員年数が浅いながらも役を担いながら経験を積んでいる。児童は日々密度の高い中で生活を送りながらも、大多数は規範意識が高く、落ち着いて学校生活を送っている。だが、個人差や家庭環境の違いにより、集団行動がでうまくとれなかったり自分を発揮できなかったりする児童はいるので、指導・支援が今後も課題である。
学校関係者評価	学年末の学校評価の結果では、A評価B評価の合計は昨年度は、おおむね昨年度と同等であった。参観日や重点研授業研での日程を学校便りや学年便りでお知らせして公開しているので、多くの方の参観を通して教員の指導力の向上のA評価は上がった。あいさつや交通安全については毎年の課題である。地域の方からは「以前よりも落ち着いて登下校している。あいさつも声が出ている。」という感想が出されたが、決まった場でのあいさつや交通安全はできていても、どんな場でもできている状態ではないので、今後も家庭・地域と連携して取り組んでいきたい。

学校経営中期取組目標振り返り	地域・保護者・児童・教師のアンケート結果から、目標はおおむね達成できていると捉えている。サブリーダーを経験した中堅層が若年層の相談役にもなりながら、学年・学校をリードする役を担い、組織を形成し、機能している。児童の自己肯定感を高め、学校生活を安心して過ごすことができるよう努めることで、いじめや不登校への予防、発生時の早期対応で深刻化を防ぐことができている。今後も大規模校のよさを生かし、組織的な取組を図っていきたい。

重点取組分野	令和2年度 具体的取組	令和2年度 自己評価結果	総括

ブロック内相互評価後の気付き	
学校関係者評価	

学校経営中期取組目標振り返り	

重点取組分野	令和3年度 具体的取組	令和3年度 自己評価結果	総括

ブロック内相互評価後の気付き	
学校関係者評価	

学校経営中期取組目標振り返り	